



のっぽの手



2010年度元気助成金報告

2010年度通常総会報告

2009年度元気助成金活動報告



もっと良くなれ元気助成金

ふくしま NPO ネットワークセンター会員 早川 哲郎



当センターの独自事業としてスタートした、ふくしま元気市民活動助成金の今年度の公開プレゼンが開催され、会場には100名の市民選考委員が参加して5つの助成事業が決定されました。市民団体の企画力とプレゼン技術を高め、同時にそれぞれの活動をPRする機会として始めた公開選考方式ですが、2回目になって見えてきたものがありました。

ひとつには、応募団体の事業企画やプレゼン手法にはアドバイスが必要なことです。企画内容の完成度もそうなのですが、企画書や予算書の書き方で「？」の部分があり、それらは経験だけでは自ら把握できないことですので、書類作成の段階から当センターが関わって助言する必要があるようです。

プレゼンでは事業内容を説明するよりもイメージを伝えると選考委員受けが良かったようです。活動をテレビ取材された録画を見せる「禁じ手」的なプレゼンもあり、これが結構票を得ていまし

たが、市民選考会の性質上しょうがない部分もあると思います。これも、助言することで、伝えるべきことを伝えるプレゼンにできれば良いと感じました。

参加した団体の方からも「どうして点数が低いのか教えてください」との要望も聞いています。元気助成事業の一環として助言もしていければ良いと考えます。

もうひとつの課題は市民選考委員方式です。公開プレゼンでは参加団体の動員が当然あるものと考えて、一人の投票数を5票にすることで動員効果を下げる対策が採られていますが、動員された市民選考委員がちゃんと採点して投票しているか疑問に思える点があります。

動員もまた公開プレゼンの一要素だと思います。こちらで一定人数選考委員を依頼し比重をかけた票を持ってもらうなど、選考方法に工夫が必要と感じました。



7月11日公開プレゼンテーションの様子

平成 22 年度の通常総会報告 ～活動のギアON！～

ふくしま NPO ネットワークセンター 副理事長 星野 珙二

7月17日(土)の午後、当センターの通常総会が開催され、昨年度の事業報告、決算報告が承認され、また本年度の事業計画、収支予算案が認められた。役員改選の年度ではないが、活動を強化するために、新理事2人の追加を認めていただいた。さらには、理事会決議事項の方がふさわしいにもかかわらず総会決議事項に記載されていた定款の一部、あるいは単純な記載ミスなどについて、

定款変更を認めていただいた。淡々とした総会ではあったが、これで本年度の活動のギヤが力強く回り始めたという実感が持てた。

総会終了後、おりおりの会、ひびきの会、たけねっとの3NPO法人からパネリストを招き、牧田実理事のコーディネートの下で、NPOの現場に課題を浮き彫りにするシンポジウムが行なわれた。

新理事紹介

小林 廣充 理事

別な『NPO』の支援を始めた7年前、お世話になった「ふくしま NPO ネットワークセンター」の一員になれて、大変うれしく思っています。

当時「NPOってなんだろう」と試行錯誤する中、「すきまを埋める」「組み立てを変える」と、心ひそかに唱えて、自分に言い聞かせていました。以来ずっと今も、【ふくしまの場所空間特性】と【ふくしまのこれから大切な考え方】を掘り起こし捉え返していくことが重要だと考えています。

福島県での37年と民間コンサルタント2年目の経験を生かして、引き続き「手で考え」、「足で考え」しながら、みなさんのために微力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

作田 謙太郎 理事

本年度より理事として参加させていただきます作田謙太郎と申します。昭和45年、福島生まれの福島育ち、今年で40歳になります。これまで、(社)福島青年会議所に所属し、まちづくり運動、ひとづくり運動に取り組んでまいりました。皆様方から学ばせて頂きながら務めて参る所存ですので、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



よろしく
お願いします。



NPO研究会が生まれ変わります。

その1. NPOに関するディープな学びの場

その2. 日ごろの活動のヒントと元気の素をおとどけします

その3. 共感と仲間づくりの輪を広げましょう

『のっぽ・アカデミー』

シリーズ 1

協働の風景2010

シリーズ 2

NPO制度改革のツボ

シリーズ 3

議員と語る

第1回『のっぽ・アカデミー』2010.

テーマ:「新しい公共を掲げる民主党のNPO政策」

講師: 参議院議員 金子恵美さん ※この回は、参加無料です。

と き: 2010年10月2日(土) 14:00~15:30

会 場: 福島市市民活動サポートセンター(チェンバおおまち3F)

※上記のシリーズは都合により変更する場合があります。詳しくは、ふくしまNPOネットワークセンターまで。

総会記念パネルディスカッションの報告



ふくしまNPOネットワークセンター常務理事 牧田 実

今年度総会の終了後に、「こちら NPO ☆ 応答願います～NPOの現場がつなぐもの」と題するパネルディスカッションを開催しました。コーディネーターを務めた私からその様子をお知らせします。

パネリストとしてお招きしたのは、特定非営利活動法人ひびきの会（福島市）の藤本武彦さん、同おりの会（伊達市）の貝津重之さん、同たけねっと（二本松市）の高橋淳記さんです。パネルディスカッションは、「NPOの組織や活動をステップアップするための課題を現場の本音語りによって抽出し、その克服のためのヒントをともに考える」ことを趣旨としました。各パネリストから、団体と活動の概況、これまでの活動の自己評価、協働・連携の実態などについて報告いただいたうえで、ステップアップのための課題とその克服のためのヒントを話し合うというのが大まかな流れでした。

精神障がい者の支援をミッションとするひびきの会さんからは、家族会からの発展形としてこのまま NPO 法人で行くのか、より専門性・公共性を高めて社会福祉法人をめざすのか、その選択を迫られる時期に来ているのかもしれないとお話

がありました。在宅介護支援ネットワークであるおりの会さんからは、独居老人をはじめとして地域に潜在している膨大なニーズにどう対応していくのが課題だが、人的な余裕がないという現状が報告されました。旧城下町のまちづくりイベントを手がけるたけねっとさんからは、行政に頼らず、身の丈にあった活動を心がけているが、担い手層の高齢化がやや懸念されるとのお話がありました。新規会員が増えず、会員の高齢化が進みつつあることは、いずれの団体にも共通する課題といえます。

NPO が設立メンバーから第二世代へと継承され、ステップアップしていくためには、まず足元を固めること、つまりいかに会員を拡大し、後継者を確保するのが重要な課題となるようです。なお、協働と連携という点では、いずれの団体も行政への評価は低く、支援以前に NPO への認識の低さを指摘する声が大きかったことが印象的でした。また、私ども中間支援 NPO への期待もさほど大きくないという点で共通していたということも、公平のため、そして自戒を込めて付け加えておきたいと思います。

東北ろうきん NPOパートナーシップ2010

参加者募集

ふれ愛の日。体験型ボランティア [参加者募集]

2010年8月～2010年12月24日

東北労働金庫 福島県本部 松崎和幸

東北労働金庫 福島県本部 松崎和幸

がある。気軽に体験できるプログラムがあれば…」このようなニーズにお応えするべく、ふくしま NPO ネットワークセンター様と連携し、パートナーシップ 2010「気軽に安心して参加できる体験型ボランティア」の参加者を募集することになりました。

ボランティア活動を通して地域社会へデビュー、新しい出会いや新たな自分探し、生き甲斐づくりを「ろうきん」がサポートします。

詳しくは最寄のろうきん各支店・ふくしま NPO ネットワークセンターにお問い合わせください。

東北ろうきんでは、「ボランティア活動に興味あるけど、誰に聞けば良いの、何処に行けば良いかわからない」「ボランティア活動って、どんなこと



ふくしまを元気にする市民活動助成に寄せて

NPO 法人ルワンダの教育を考える会 理事 佐藤 俊子

日頃触れることの少ないアフリカという異文化に関心を持っていただき、さらにルワンダの内戦後の復興に向けた取り組みの紹介をとおして国際交流と平和の大切さを理解していただくために、初めてのチラシ作成に対して助成をいただきました。

書類作成はもとより、多くの方々の前でのプレゼンテーションは初めての経験で頭が真っ白になってしまいましたが、12月13日助成金支給対象事業の5団体の一つに決定された瞬間はとてうれしく感動しました。その後、当会でチラシを作成し、そのチラシをみて寄付金が寄せられてくるときに、感謝の気持ちと共に私自身の自信につながっていきました。

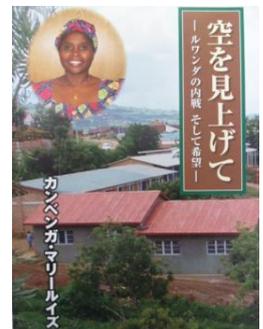
1994年の内戦の悲しみを乗り越えて“命の力”を歌うルワンダ出身のミュージシャンたちを

迎えて、7月2日～18日福島県を中心に全国15ヶ所のコンサートを行った一人のスタッフとして携わることが出来ました。また、このコンサートに合わせて、当会理事長でもあるマリールイズの自叙伝の自費出版の編集にも携わることが出来ました。

65回目の終戦記念日を迎え、戦争経験者が少なくなるなか、改めて平和の大切さを大事に、これからも活動してゆきたいと思います。

さらに、「ふくしま元気市民活動助成金」の公開プレゼンテーションをきっかけに、福島からNPO活動に関心を持つ人々の輪が広がることを期待したいと思います。

自費出版された自叙伝 →
定価 500円



福島市市民活動サポートセンター 会議室利用案内

開館時間 午前10時～午後9時30分

休館日 毎週火曜日

○会議室は4部屋です。20～30人収容可。しきりをとって広く使うことも可能です。

○事前の団体登録が必要です。（登録団体については市民活動をされている団体に限ります。）

○2ヶ月前からの予約ができます。お電話での仮予約をお受けいたしますが、一度ご来館いただき規定の用紙にご記入をお願いいたします。

※予約方法等変更になる場合がございます。詳しくは福島市市民活動サポートセンターまでお問合せください。

編集後記



暑い日が続いています。扇風機が大活躍しています。ようやく事務局前の道路工事も終わりそうです。道路がきれいになってきました。(S)



先日、北海道へ行ってきました。さぞや涼しかろうと思いきや、暑い、暑い。観光バスの中でクーラーをめぐる闘争が勃発するほどでした。(S)

■福島市市民活動サポートセンター

960-8041 福島市大町4-15 チェンバおおまち3階

TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560

■ふくしま情報ステーション

960-8053 福島市三河南町1-20 コラッセふくしま1階

TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027

発行：ふくしまNPOネットワークセンター

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル

TEL 024(528)1211 FAX 024(528)1218

E-mail center@f-npo.jp URL <http://www.f-npo.jp/>